



倫敦新聞抄譯

英國商務局統計課ノアルギョフセン氏  
諸高品價格低降ノ演說

大藏省  
翻譯課

4092





114  
A 3743



倫敦新聞抄譯

吉田五十穂譯

大正十一年四月

集會アリ商務局統計課ノアール、ギンゼン氏ハ近年諸商品ノ價格  
 低降セシ報告書ヲ朗讀シ其主意ヲ演述シタリ此集會ノ會頭ハ  
 即チ右統計社中ノ長リフエレー氏ナリ(吾輩ハギンゼン氏ノ說ヲ  
 傍聽筆記セシテ左ノ如シ)  
 ギンゼン氏曰ク此西三年ノ間諸商品ノ市價ニ於テ大下落アリシ  
 ハ世人ノ一般ニ認知マル所ナリキ、綿及鐵ノ下落ト此兩種ヲ以  
 テ製造スル諸物品ノ下落ハ著明ナルモノトシテ名証商業ノ損  
 失ハ此下落ニ影響レテ起リシコト必然ナリ、帝ニ資本ニシテ  
 ヲ挫折シテ遂ニ負債ヲ起サシタル而已ナラス資本多キ者久ガ  
 非帝ノ損失ヲ被リシ端ヲ聞キタルモノハ即チ物價ノ下落是  
 レナリ而シテ物價ニテマ落シタルガ為ノ高買ハ更ニ許多ノ



債ヲ負ニ且リ許多  
多ノ破産ハ既ニ物價ノ  
曠成セシヲ充分ニ証明スルニ足レリ然レ氏此ノ如キ事ニ於テ  
統計学者ニ向テ下ス可キ問題ハ物價ノ一般ニ下落セシメ  
間ニアラヌシテ其下落シタル原因ハ何ニ依テ生じヤ且ツ如  
何シテ之ヲ他ノ同様ナル種類ノ事實ニ比較シ得ヘキヤ或ハ又  
此物價ノ低降ハ唯一時ノ事ニアラスシテ殆ト永久ノモノナル  
ト歎ト云フニ在リ余ハ以為ク現今物價ノ低降ハ一時ニ来リ  
モノニアラス數年前ヨリ漸々下リシモノニシテ此低降ハ諸物  
ノ高況衰ヘタル時ニ於テ生じタル低價ヨリモ更ニ甚シトス而  
シテ若シ不日賣買上ノ景況ニ於テ大ニ變動ヲ生スルニ非レハ  
此物價低降ハ稍々永久ノモノト成ルコト有ルヘキナリ矣ニソノ  
低降ノ区域ヲ示サシガ為メ物價ノ最モ騰貴シタル時限即チ千

八百七十三年一月一日ニ於テ重モナル糧物品ノ價格ヲ以テ  
本年一月一日右同物品ノ價格ニ比較スルコト左ノ如ク即チ蘇格  
蘭産ノ鉄鐵ハ(一噸ニ付)百二十七シリングヨリ四十三シ  
ングニ下落シ、錫ハ百四十二磅ヨリ六十一磅ニ下落シ、石炭ハ三  
十シリングヨリ十九シリングニ下落シ、小麦ハ一クオルト  
ルニ付五十五シリング十一ペンズヨリ三十九シリング七  
ペンズニ下落シ、綿ハ一ポンドニ付十ペンズヨリ五ペンズ四分  
ノ三ニ下落シ、絨毛ハ一色ニ付二十三磅ヨリ十三磅ニ下落シ  
リ、(モリエン氏曰ク)余ハ各物ノ市價ヲ引用スルノ後、其期望セザ  
リシコトヲ見タリ乃チ前年ニ市場ノ渾商物品ノ市價ヲ記シ  
此六ヶ年ノ中ニテ最高ノモノハ百分ノ六十六ニシテ最低ノモ  
ノハ百分ノ十二ニ至ルコトヲ下落シ而シテ唯三箇ノ物品ヲ除クノ  
外ハ百分ノ六十六ノ間ニ昇降シタルヲ見ル此原因



ニ就テハ稍々疑ヲ以  
キ所ナシ然レモ今爰ニ言フベキコトアリ  
リ何ツヤ即チ千八百六十五年ヨリ物價下落ノ状ヲ顯ハシ来リ  
千八百七十三年ニ至リ之ヲ比較スルニ其下落ノ著大ナク是レ  
ナリ、余ハ此下落ヲ左ノ三原因ニ歸セリ即チ(第一)取引上ノ信憑  
ノ非幣ニ永ク續キシコト(第二)不良ノ収獲(第三)金ノ需空ニ幣ニ夥  
多ナルコト是レナリ  
第一ノ原因ニ就テ之ヲ見ルニ一ノ時代ト他ノ時代トヲ比較ス  
ルト難シトス蓋シ幣ニ物價低降ノ時ニ於テハ世上ノ物件疎忽  
ト為リテ以前ニ於テハ此ノ如ク悪カラザリシトノ感覺ヲ衆人  
起スモノナリ、余ハ千八百六十六年ノ恐慌ノ後兩三ヶ年向ハ當  
府下ノ商業悉ク衰色ヲ帯ヒ不景氣ノ状アリタルヲ能ク記憶セ  
リ即チ右時限ノ向ハ為替手形ノ割引ヲ為ス商館ニ於テ一時ハ  
預リ金ニ向テ百ニ角十ニルリシクノ割引排ヒシコトアリ、當時刊

ジングロー評論誌中ニハ當府ニ流行セル備工賃銀一揆ニ就テ  
有名ナル論文ヲ記載シタリ而シテロルドクラレンド氏ハ前  
顯恐慌ノ事ニ就キ我カ外國駐在公使ニ事實ヨリモ一層惡ノ申  
送リタルヲ以テ人民ハ皆ト同氏ヲ非難シタリ、オズレンド社  
中手形ノ破産ノ如キハ曾テ先例ナキコトナリキ故ヲ以テ人民ハ  
當時ノ不景氣ヲ最モ惡シキモノト認許シタリ然レモ千八百六  
十六年以來世上不景氣ノ状ヲ顯ハセシト雖モ此三四  
年不景氣ヲ惹起スニ至ラザルベシト想像シタリ  
第二ノ原因ニ就テハ余ハ千八百七十五年ヨリ同七十六年マデ  
三ヶ年間氣復不順ノ為メ穀物ノ品質不良ナルヲ以テ  
降ノ劇烈ナリシコトニ歸ヤガル可ラス抑モ此ノ如ク穀物不良ノ  
為メ劇烈シテ陸續貿易上ニ不景氣ヲ来タシ隨テ其價ノ低降シタ  
ルニハ未タ曾テ之  
ト經濟士輩ノ一般ニ認許スル所



ナキ、右三ヶ年ノ... 小麦ノ收穫ハ最も甚クシク多分、  
ノ不足ヲ生じタリ、疑、容ルベカラズ、カイルド氏ノ説ニ據レ  
バ此ノ二十年間ノ産出高ヲ平均百ト看做ス、ハ千八百七十五  
年ノ作ハ七一八、同七十六年ノ作ハ七十六、同七十七年ノ作ハ  
十四ナリキ、仔細ニ之ヲ言ハバ我カ國小麦ノ收穫、  
平均高ニ比較スレバ四分ノ一ノ不足ナリ、而シテ又右三ヶ年間  
ノ不足ヲ豊年ノ收穫高ニ比較スレハ勿論其不足ハ前懸、  
一ヨリモ多カルベシ、右ニ記セシ如ク小麦ノ收穫ハ甚ク不足シ  
タレ、小麦ト麴トハ別段ニ其價ヲ昇騰セザリキ、然ル所以ハ  
他ナシ、他國ヨリ絶ヘス、廉價ヲ以テ品位宜シキモノヲ澤山輸入  
シタレバナリ  
又右三ヶ年間ニ於テ獸類ヲ養飼スル草及ビ菜根ノ産出高モ例  
年ヨリハ不足セシガ其不足ハ幾許ナリ、レヤ之ヲ精密ニ計算ス

ル、能ハザレ、全輩ハ右三ヶ年ノ間ニ牛羊ノ頭數最モ減少シ  
タルヲ知ル、即チ大不列顛ニ於テ千八百七十四年ヨリ千八百七  
十七年ノ間ニ牛ノ數六百十二万五千頭ノ内ヨリ四十二万七千  
頭ヲ減少シタリ、即チ三ヶ年間ニ殆ント百分ノ七十ノ減少ナリ、又  
右同時間ニ羊ノ總數三千零三十一万四千頭ノ内ヨリ二百十五  
万三千頭ヲ減少シタリ、即チ三ヶ年間ニ是レモ亦百分ノ七十ノ減  
少ナリ  
第三ノ原因ハ日耳曼ニ於テ新タニ貨幣ヲ鑄造スル為メ且ツ合  
衆國ニ於テ此三四年前以來再ヒ正金ノ仕拂ヲ禁ス、  
兩國ヨリ金ヲ需要スルノ非常ニ多カリシナリ、此論點ハ、  
給ノ問題、  
化トヲ除クノ外、  
レ、余ガ掲出セント、  
即チ金ノ供給ノ永久減



少スルヲ是レハ世界ニ於テ而ク金ノ需要増加シ道テ其價格上  
ニ必ス永久ノ效身ヲ生ズルニ全ク關係スルト否トヲ問ハスヲ  
論スルニ有テスニテ前段ノ如キ非常ノ需要ハ必ス反動ヲ起シ  
モノナルガ故ニ又一時非常ノ低降ヲ生ズルニ至ルベシ言フ  
ニアリ日耳曼ニ於テ此六ヶ年以來金貨ノ鑄造高ハ八千九百萬  
磅ニシテ此數額ノ中ニ於テ舊貨ヲ再ヒ鑄造セシモノハ極メテ  
少量ナリキ又合衆國ニ於テ金ヲ蒐集セシ高ハ大体此ニ  
中ニ蓄積シタルモノニシテ凡ソ三千萬磅ニ達シタリ右ニ記載  
シタル二箇ノ金高ハ統計一億一千四百萬磅ニ達セシ而已トシ  
その他ノ非常ノ需要即チ荷蘭ニ於テ銀貨ヲ廢シテ金貨ヲ用井タ  
ルニ由テ生ズル需要ト日耳曼ニ於テ舊貨ヲ改鑄シタル高トシ  
差引計算スレバ則チ此八ヶ年間に金ノ非常ナル需要高ハ一億  
二千萬磅即チ一ヶ年ニ一千五百萬磅ニ達シタリ此八ヶ年前

ニ於テ金ノ年々產出スル高ハ唯二千萬磅ヨリ二千二百萬磅ニ  
過キザラシニ爾後此高ハ稍々減少セシ而已トラス右ニ掲ケタ  
ル非常ノ需要アリシガ爲メニ通幣ノ幣安(即チ貨幣ノ廢滅損傷  
等其他人民ノ増殖及ヒ富饒ヲ増加スルニ隨テ新タニ貨幣ヲ鑄  
造スル等)ニ應ズル金高ハ極メテ鮮少ナリシヲ論フ誤トカシテ  
明瞭ナリ然ルレバ則チ前段ノ三原因ハ諸物品ノ價格ヲ多年ノ  
間未タ曾テ見ザル所ノ低點ニ下達シタルモノノ如シ蓋シテ  
ノ原因ハ既ニ生シタル效果ノ幾分ヲ説明スルニ足ルベシトハ  
論者モ主張シ難カル可シト雖モ是等原因ハ既ニ在リシト言  
ハル説ハ更ニ疑フ容ル所ナシ然リト雖モ尚ホ又ハ一ノ原因  
因(即チ幣ニ金貨ヲ用フル邦國ノ通幣需要ニ向テ金ノ通幣供給  
ノ實際ニ不足スル)アリテ物價ノ低降ヲ生ゼシノガリシヤ否  
ヤノ問題ヲ必ス起スベシトハ此問題ハ前ニ記載シタル非常



ノ需要ニ由テ生スル效果トハ全ク相関係セサハモノナリ而シテ余輩ハ之ヲ別論スルニ最モ緊要ナリト信ズ余ハ假令此ノ如ク原因ノ效果ハ斯ル非常ノ需要ナキ時ハ未タ全ク上ニ知ラレザリヤ否ヤニ疑ナキニアラズト雖共原因ハ物價ヲ低降セシムルノ作用ヲ為セシト有レバ言フ所ニ此效果ニ就テ假定スル所ノ誤ハ左ノ如ク即チ此二十五年ノ間ニ金ノ供給ノ判然減少シタル是レナリ、千八百五十二年ヨリ七十二年ニ至ルマテ産出シタル金ノ概算高ハ五十年間ヲ以テ一期トシ毎期ノ平均高ヲ見ルルハ則チ千八百五十二年ヨリ五十六年マテ総産出高一億四千九百六十六万五千磅ニシテ々ノ平均高ハ二千九百七十三万三千磅ナリ、千八百五十七年ヨリ同六十六年マテ総産出高一億二千三百十六万五千磅ニシテ年々ノ平均高ハ二千四百六十三万二千磅ナリ、千八百六十二年

ヨリ同六十六年マテ総産出高一億二千三百八十万磅ニシテ年々ノ平均高ハ二千二百七十六万磅ナリ、千八百六十七年ヨリ同七十一年マテ総産出高一億零八百七十六万五千磅ニシテ年々ノ平均高ハ二千七百七十五万三千磅ナリ、千八百七十一年ヨリ七十五年マテ(四十年間)総産出高七千六百八十万磅ナリ、千八百五十二年ト同六十一年トノ間ニ年々ノ産出高ニ於テハ二千五百万磅ヨリ三千万磅以下ニ減少セシト蓋シ一日瞭然トシ且ニ前題ノ問題ハ固ヨリ此考案ニ依テ決定セザルナリ即チ近年大ニ金坑ノ奈見アリニ因テ生レタラシク效果ハ甚大ナル中ニモ金ノ貿易ヲ為スベキ市場ヲ新設シタル是レ其一也、  
 西ハ金銀ハ本位貨幣ノ制度ニ據テ重モニ金貨ヲ用ユル所ナリタルニ依リ新々金ノ供給ヲ要シ最モ多ク之ヲ蒐収シタリ、  
 印亦最モ巨額ノ金ヲ蒐収セシカ曾テ諸國俾作ノ凶款ナリ



ニ 間ニ印度ノ信憑俄然トシテ大ニ外國ニ於テ増加セシ際ニ  
方リテハ殊ニ之ヲ需要セシト甚タ多カリキ乃チ千八百六十六  
年ニ至ルマデ金ハ市場ニ於テ非常ノ需要アリシニ依リテ銀  
ノ正シキ地位ニ歸着スベキ時間ハ殆ド之レ無キガ如ク感動  
セラレタリ而シテ專ラ金貨ヲ用ユル邦國ニ於テ金ヲ需  
要セシ所ノ數額ハ幾許ナリシヤ之ヲ充分ニ証明スルヲ能ハズ  
ト雖氏共減少シタル供然高ハ現今非常ノ需要ニ應スル  
サルハ明瞭ナリ又金ノ産出高ハ實際ニ減少シタルヲ示セシ  
而已ナラス其間採ノ費用ヲ大ニ増加スルニテサレハ恐ラク  
ハ其通常ノ供給高ヲ得ルヲ能ハザル可シ現今産出スル所ノ  
九百万磅ノ數額ハ此二十年前ニ三十万磅ヲ採取セシヨリ多  
クハ勝ト 費シテ之ヲ得タルナリ之ヲ要スルニ世トニ於テ若  
シ物價ノ昇騰スベキ勢アル時ハ高ト益々金ノ供給ヲ減少スル

ニ 依テ此勢ヲ防止スルヲ有ルベシコトヲ現今有益ナル全坑ヲ開  
採セシキヲ得ルモ若シ諸物價(備工ノ賃銀等)ニ賃取等ヲ以テ  
云フノ騰貴スルヲアル時ハ其得ル所ノモノヲ以テ償スルノモ  
ノヲ償還スルヲ能ハザルベシ余輩ハ又茲ニ於テ金ノ通常需  
ハ依然トシテ變ラザリシ故ノ問題ヲ起サドルヲ得ニ此間ニ就  
テハ金ノ供給漸々減少スルニ從テ必ス其一般ノ需要大ニ増加  
セザル可ラズト答ザルヲ得ズ此論點ヲ反覆考究シテ余  
ニ此所ノ決論ハ左ノ如ク即チ方今ノ景況ニ於テ金ノ供給益々  
減少スルニ從テ諸物價モ亦其割合ニ應テテ低價トシテ  
ノ外其他ノ變動ヲ見ルヲ能ハザルナリ  
右ニ記載シタルガ如キ物價低降ノ事實ヲ以テ稍々數回ノ事件  
ヲ説明セシト雖モ一低價ヲ差起スコトヲ助ケタル諸原因ノ一層  
永續スルヲニ就テ更ニ精密ニ論ズルハ尚モ更ク之ヲ考究セ



ガ、可ラズ第一ニ余輩ハ自國ノ貿易殊ニ我ガ國貿易ノ衰微  
ニタル為メニ諸國ノ低降セシトニ就テ充テナル説明ヲ有セ  
リ即チ外國ノ貿易衰微セシニ依テ恐懼スル者ハ既チ多ク  
論說ヲ為セガ或ハ外國人ハ我ガ國ノ製造人及ヒ其  
使用スル勞作人ノ口ヨリ麴麴ヲ奪取スルノ説アリト  
雖モ余ハ外國ノ貿易ヨリ衰ニ發生シタル所ノ諸果ヲ及覆テ寧  
ニ考究スル所ノ者或ハ外國競争者ノ壓力ニ依テ内外共  
ク受ル一ニノ貿易ノミナラス我國一般ノ貿易上ニ生シタル事  
ヲ熟考スル者ノ未タ曾テ右ノ説ニ左袒セシトアルヲ余見セザ  
ルナリ余輩ハ爰ニ我國ノ貿易衰微シテ我國人ハ損失ヲ被リ  
國人ハ利益ヲ獲ルトニ記載シテ其ハ實ニ其形情ニ  
シカレバマリシカ如ク決シテ我ガ貿易ノ衰微セシト無リ  
如何ヲ示サント欲ス爰ニ物價ニ於テ平均ニ割若クハ三割ノ

伊降ハ諸外國一般ニ其差異ヲ生セザルを得ザリシト暗然シリ  
即チ一七七十三年同七十七年トノ間ニテ其額ニ變耳蘭  
ノ輸物ハ其總體ノ價格ニ於テ倍々ニ減シタル是レナリ  
千八百七十三年ノ輸物ノ價額ハ二億五千五百  
十六万五千磅ニシテ千八百七十七年ノ價額ハ一億九千八百八  
十九万三千磅ナリキ則チ其差ニ於テ五千六百二十七万二千磅  
ノ減少ヲ若ハスナリ又商務局ノ報告ヨリ改革シタル數  
ニ據ルニ千八百七十七年ノ輸出中ニ記入シタル物品ノ總價  
額ハ一億四千七百八十万一千磅ナリシカ千八百八十一年ノ相  
場ヲ以テ之ヲ計レバ此輸物品ノ價直ハ一億九千九百三十三万  
磅トナリシ一可シ余謂テ千八百七十三年ノ如キ如キノ景  
況ハ則チ繁榮トシ多クハ唯其外面ノミノ虚飾ニ出テモノ  
ナリ而シテ時々商業ノ不景氣ハ全く人民困迫ノ極ニ至リテ自



家ニ顧ミルニ居常自ラ懸像セシガ如ク富裕ニアラザリシヲ驚  
 歎スル事實ニ汲汲トザルヲ得ズ余ハ又金價ノ騰貴スルヲ録  
 價ノ下ニ下ルヲトニ就テ生マズキ關係ヲ顧慮スルニ即チ注視  
 スベキ要點ニ者物ノ一大下落ト傭工賃銀ノ低降トノ爲ニ生ス  
 ル關係ナリ此二個ノ事件ハ互ニ密接シテ須臾ニ離ラザル  
 モノナリ此關係ハ近年殊ニ鐵ノ貿易ニ於テ著ハルタリ第一ハ  
 其ノ商業ニ於テ其産出セシ物ノ総價ハ甚ク減少シタルヲ以テ  
 若シ工作賃ヲ改正セザレバ工作人ハ其製造スル所ノモノニ就  
 テ夥シク増加シタル股分ヲ收受スルノ勢ニ至ラン例ヘバ以前  
 ニ十磅ノ市價ニ取賣シタル物品ハ其工作賃ヲ向ヘバ市價ノ  
 分ノ一即チ五磅ナルヲスラ若シ此物品ノ市價低降  
 爲ルキニ至リテハ工作人ニ与ヘタル五磅ノ賃銀ニ市價ノ百分ノ五  
 ト爲ルベシ夫レ斯ノ如キ一大變動ノ發生シテ工作人ニ感奮

ニル所ナキハ其ニ信シ難キホドノ事ニ有リシガ尚ホ受ニ鐵  
 及チ石ノ貿易ニ於テハ更ニ大ナル變動ヲ發生シタリトス第  
 ニハ殆ド一切ノ商業殊ニ物品ノ製造費中工作賃ヲ以テ分  
 ヲ占ムル商業ニ於テハ給料ニ拂渡ス賃銀ノ割合ト工作人  
 ニ支消スル物品ノ市價トニ於テ時日ヲ經ルノ久シキ中ニ必  
 ス或ル關係ヲ生スベキナリ又財主ヨリ工作人ニ拂渡シタル真  
 ノ給料ハ其製造スル物品ヲ貨幣ノ代リニ与ヘシ者最モ  
 居ルヲ論フ筈タスシテ明白ナリ然ルニ若シ其製造スル所ノ物  
 品下落スルモ貨幣ヲ以テ拂渡ス所ノ給料ハ依然トシテケレバ  
 則チ真ノ給料ハ増加シテ割合ナリ然レバ則チ物價ノ下落スル  
 割合ニ進ミ賃銀ヲ以テ拂渡ス給料モ亦減少スルヲ以テ自然  
 ノ情勢ニシテ割合違ク可ラザルヲト爲リシナリ  
 右ニ論セシ所ノ許多ノ定説ハ世ニアラス金ノ缺乏ハ全ク現今



物價ノ低降ヲ助ケタル原因ニ且ツ將來亦重大ノ結果ヲ  
生スルヤモ計リ難ケレハモシ成ル可キナレバ此禍害ヲ軽減セ  
ンコト要ス法律上ノ作用ヲ以テ幾分カ此禍害ノ増殖ヲ防止  
セシムルヲ要スレニ在リトマ乃チ爰ニ唯一箇ノ解明ヲ与ヘント  
ス抑モ英國ニ於テ一磅ノ紙幣若クハ五磅以下ノ紙幣 再ヒ発  
行スベシト建言スル者アリテ之ヲ採用セラルルコト有ル可シト  
思フハ甚ク怪ムベキコトナリト雖モ若シ此ノ如キ紙幣ヲ發行シ  
テ總テ其交換ノ規則等ヲ適當ニ設クル時ハ曾テ日耳曼ノ貨幣  
鑄造ニ就テ生ジタル金ノ需要ノ如キ又他ノ非常ナル需要ヲ起  
スコトアルモ必ス遠カニ其缺乏ヲ補フナルベシ故ニ現今ハ如  
金ノ缺乏久シク續キクラシニハ一磅ノ紙幣ヲ發行スルコトハ多  
分或ルリトフ獲ベキアルモノノ如シ但シ此ノ如キ紙幣  
發行ノ主義ニ左祖スル者ト認メラルハ事ヲ願ハズ又或ハ此ノ

セキ主義ノ直チニ建言セラレシ中ハ之ニ因リテ生スベキ許多  
實際ニ 論ニ感動セザル者ト見做サレモコトヲ希望スルナリ  
然レモ余ハ此ノ如キ紙幣ノ發行ヲ以テ准或ハ貨幣ノ用 若キ  
其流通ノ補助ヲ為スベキ方術トシテ記載セシニ過ギズ蓋シ  
國ニテモ小紙幣ヲ廢止セント欲スル目的アルモ種々ノ事情アリ  
リテ猶ホ之ヲ流用スル地方ニ於テ若シ廣大ナル金ノ需要ニ生  
ジシムル變動ヲラハ必ス之ヲ防止スルノ方法ヲ設ケザル可ラ  
ズ余輩ハ尚ホ又銀貨ヲ用ユル邦國ニ於テ金貨ヲ以テ現ニ使用  
スル銀貨ノ幾分カヲ交換セント欲シテ若シ大ニハム要ヲ惹  
起スベキ變動アラバ之モ亦防止セントコトヲ願ハザル可ラ若シ  
現今何レノ患ニ於ルモ近來日耳曼又ハ台衆國ニ於テ金ヲ需  
要セシ如キ甚シキ需要ノ生ヒ察生スルコトアラハ商業上ニ於テ  
ハ是レヨリモ不幸ナル災言ハガニ比類スル者ナカルベシ之ニ



及シテ金ノ需要ノ甚ダクキ  
テ重大ノ變動ヲ生ズルコト  
右ノ説、該畢、テ高ホ暫時討論アリシ後會頭ハギフエシ  
人心ヲ感動スベキ報告書ニ向テ同氏ニ謝酬ノ奏言ヲ為シ之レ  
ニ次テ衆人稱讃ノ聲ヲ奏シタリ

虎  
212



